

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教

氏名：北尾 美香

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	口唇裂・口蓋裂、レジリエンス、熱性痙攣
学位	最終学歴
博士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 視聴覚教材を用いた学習	2020年05月～	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いた遠隔実習を行うこととした。プリレシーションの学習については、インターネット上で公開されている動画等を画面共有機能を使用して見せ、内容や方法についての復習を行った。フィジカルアセスメントに関しては、DVD教材を画面共有機能を使用して見せ、復習を行った。看護過程の事例に関しては、紙ベースでの事例の配信前に、DVD教材を見せ、学生が子どもの発達段階を理解しやすいように工夫した。
2. Google Meetを使用した学生と教員の双方向型の実習	2020年05月～2020年08月	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。 1グループにつき、助教2名体制で実習を行い、事例の看護展開においては、教員・医療スタッフ役と、患者・家族役に役割分担をした。実習開始までに、履修登録をしている学生をグループの指導用、個人指導用、病室用のGoogle Meetに招待し、ナースステーションと病室を想定した遠隔実習を行った。学生それぞれに事例を割り当て、学生は看護計画を立案し、教員役の教員から指導を受け、患者役の教員を相手に看護援助を実施した。本取り組みを行った学生の実習の学びは、臨地実習に行った学生の実習の学びと同じ内容が挙げられており、遠隔においても質を担保した実習を行うことができた。
3. 小児病棟を再現した部屋でのシミュレーションの実施	2020年05月～	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Meetを用いて、シミュレーション実習を行うこととした。学生が小児病棟の病室を想起しやすいように、看護科学館母性・小児実習室内に模擬病室を再現した。学生がGoogle Meet上で患者の療養環境及び行動・表情がよく見えるよう、患者・家族役の教員はカメラ位置を調整した。本取り組みで学生は遠隔でも患者の言動および療養環境を観察することができ、患者の状態に合わせた個性の高い看護計画の立案。実施、評価をすることができた。
4. Google Classroomを用いた連絡や課題提出	2020年04月～	武庫川女子大学看護学部臨地実習「小児看護学実習」（専門科目、3年次後期～4年次前期配当、必修2単位）で実施した。コロナ渦の影響により臨地での実習が不可能になったことから、Google Classroomを開設し、その中で連絡事項や患者事例、実習記録（Googleドキュメント）を配信し、学生は期日までに記録を提出することとした。学生はパソコン、スマホ、タブレットなど様々なデバイスを使用していたため、実習記録の提出は配信したドキュメントと、配布済みの紙ベースの記録の画像のどちらでも可能とし、学生が課題に取り組みやすいように留意した。Google Classroomを使用することで、遠隔でもすぐに教員が実習記録を見ることができ、リアルタイムな看護過程の指導ができた。
5. Google Classroom、Meetを活用した国家試験対策の個別指導	2020年04月～	武庫川女子大学看護学部3年生を対象にGoogle Classroom、Meetを活用し、遠隔での個別指導を行っている。具体的にはGoogle Classroom上に課題を提出し、学生の勉強習慣の定着を図っている。また、Meetを利用することで遠隔で、国家試験対策に関する学生からの相談に乗れるようにしている。
6. Google Classroomを用いた授業動画の配信	2020年04月～	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。コロナ渦の影響により対面授業が不可能になったことから、授業動画を配信することとした。履修登録をしている学生をGoogle Classroomに招待し、その中で授業に関する動画や資料を配信した。授業動画は、パワーポイントの録画機能やXsplitを用いて作成した。Google Classroomは、パ

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
7. Google Formを用いた双方向性の授業展開	2020年04月～	<p>ソコンやスマホ、タブレットなどインターネットに接続可能なデバイスであれば視聴可能であり、各学生が自宅にいながら授業を見ることができるよう配慮を行った。本取組みにより、外出自粛要請期間でも質を担保した授業の提供を行うことができた。</p> <p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。本授業内容を動画配信した際に、Google Form（アンケート作成アプリケーション）を用いて2、3問の小テストおよび授業の学びや感想について毎回記載を求めた。Google formを用いることにより、授業動画を配信するだけの能動的な授業ではなく、学生も授業内容についての意見を出せる機会を設けることができた。学生からの質問に対して、Google Classroomの限定コメントを通して返答することで、双方向の授業展開を行うことができた。</p>
8. Google Classroomを利用した国家試験過去問題配信の実施	2018年10月～2019年03月	<p>武庫川女子大学看護学部看護学科では、国家試験対策担当の教員によって各学年用のGoogle Classroomを作成し、毎月1日と15日に10～15問程度の国家試験過去問題を配信した。正答率70%以上の必修問題を一年を通じて配信することで、学生の勉強習慣の定着と、学力向上を狙とした。</p>
9. 小児看護学実習でのルーブリックを使用した自己評価の実施	2017年10月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部臨床実習「小児看護学実習」で、小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に、自己評価ルーブリックを使用している。看護学実習を行うにあたり、ルーブリックで望ましい学習習熟度を具体的に示すことで、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのか、看護学生にふさわしい態度とはどのようなものを意識させながら、臨床実習を行うことができています。</p>
10. 看護計画の展開（PBL）でのルーブリックを使用した他者評価の実施	2017年04月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。事例を用いた小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開で、講義の最終回に関連図、問題明確化、看護計画の立案を他のグループが匿名で評価を行う。評価をする際には、ルーブリック形式の他者評価票を使用している。他のグループの学生が理解できる内容とするために、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのかを意識させながらグループワークを実施できている。</p>
11. 離乳食の試食	2016年09月～2017年12月	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。離乳食、調乳の演習では、発達段階ごとの離乳食の特徴やその違いについて理解を深めるために、学生が実際に離乳食を試食した。演習後のレポートでは、講義だけでは理解し得ない味や食感を体験できたことで、離乳食についての関心や理解が深まったという記述が多く見られた。</p>
12. 患児の事例に合わせたおもちゃの制作	2016年09月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。遊びと読み聞かせの演習では、6つの患児の事例から1つを選択し、患児に合わせたおもちゃを制作する。おもちゃは空き容器、ペットボトル、牛乳パックなどを使用して低コストで作成できることを条件としている。学生は、授業の時間内に工作を行い、完成したおもちゃの写真をレポートに添付して、使用方法や作成の意図などを書き提出した。</p>
13. 事前課題としてのインターネット上の動画の視聴	2016年09月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。小児の点滴固定の演習では、教員が制作した点滴固定の動画をweb上にアップロードし、学生は事前課題として動画を視聴して手順を図にまとめ、演習当日に実施する方法を取り入れている。学生からは「事前に動画を視聴しておくことで具体的な手順がイメージできた」という意見が多数みられた。</p>
14. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う絵本の読み聞かせの実施	2016年09月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施している。遊びと読み聞かせの演習では、前回の講義で習った絵本の読み聞かせの方法を実践するために学生間で絵本の読み聞かせを行う。ただ読み聞かせをするだけでは、自身がどのような声色、スピード、表情で読んでいるのかが理解できないため、学生はスマートフォンで動画を撮影し、自身で動画をみながら振り返り感想を書いた。学生からは「思っていたよりも早口で読んでいたので、気をつけたい」「読むことに集中して表情が硬かった」などの意見がみられた。</p>
15. 看護計画の展開（PBL）でのプレゼンテーションの実施	2016年09月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開では、グループワークでまとめた関</p>

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
16. ジグソー法を取り入れた看護過程の展開 (PBL) の実施	2016年09月～現在	連図、問題明確化、看護計画の立案について、学生がプレゼンテーションを行う。発表するグループは当日のくじで決定し、プレゼンテーション10分、質疑応答5分として、発表が当たらなかったグループも司会やタイムキーパー、質問をするようにしている。
17. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う小児のバイタルサイン測定の実施	2016年09月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」(専門科目、2年次担当、必修1単位)、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」(専門科目、3年次担当、必修1単位)で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開の際にジグソー法を取り入れている。4名1グループの編成となり、学生は4つのアセスメントをそれぞれ担当する。担当したアセスメント同士の学生が集まり、エキスパートグループでグループワークをしてアセスメントをまとめる。もとのジグソーグループに戻って自身が担当したアセスメントについて他のメンバーへプレゼンテーションをする。4つのアセスメントを統合させて相談しながらグループワークを進めて、関連図の作成、問題明確化、看護計画の立案をする。4名1グループと少人数制にすることで全員が参加でき、担当があることで学生各自が責任を持ってグループワークを実施している。
18. ミニツッペーパーを用いた双方向の授業	2016年04月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」(専門科目、2年次担当、必修1単位)で実施している。小児のバイタルサイン測定の演習では、測定時の学生の表情や声かけが客観的に理解できるように、ベッド上にスマートフォンのスタンドを置いて動画を撮影する。子どもがどのような視点でバイタルサインを測定されているのか、学生はどのような表情で声かけをしているのかが分かり、学生からは「測定することで精一杯で声かけが十分にできていなかった」「顔がこわばっていたので、もっと笑顔が必要だった」という意見があった。
19. 視聴覚教材を用いた教育実践	2016年04月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」(専門科目、2年次担当、必修2単位)、「小児看護学Ⅱ」(専門科目、2年次担当、必修1単位)において実施している。毎回の講義の最後に、学生はミニツッペーパーを書き出した。ミニツッペーパーには、今日の講義で学んだこと、感想、質問を書いてもらった。提出されたミニツッペーパーの内容を読むことで、学生は講義のどのような内容に興味をもったのか、また難しいと感じたポイントはどこなのかよく理解できた。また、質問が書かれた際には次回の講義で回答した。このようにすることで、教員からの一方的な授業ではなく、学生からの反応にフィードバックできる双方向の授業ができています。
20. 自己学習票の持ち込みを可とした小テストの実施	2016年04月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」(専門科目、2年次担当、必修2単位)、「小児看護学Ⅱ」(専門科目、2年次担当、必修1単位)において実施した。講義の最後に毎回小テストを実施している。問題は前回の講義内容より、看護師国家試験の過去問を2、3問出題した。小テストは、前回の講義後に配布された自己学習票(A5サイズで左半分のみ書き込み可)の持ち込みを可とした。自己学習票の持ち込みをするには講義が終わってから書き込まなくてはならないため、学生に復習の習慣をつけることができた。小テスト後に、教員が問題の解説を行い、学生が自己採点をした。「講義で聴く」「講義後にテキストを見直す」「自己学習票にまとめる」「小テスト中にまとめた内容を読む」「小テストの解説を聴く」「定期試験前に復習する」と最低6回は反復して学習ができた。これまでに前回の講義を欠席した学生を除いて、自己学習票を白紙の状態に提出した学生はおらず、講義内容の復習につながっている。
21. 講義の配布資料の工夫	2016年04月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」(専門科目、2年次担当、必修2単位)、「小児看護学Ⅱ」(専門科目、2年次担当、必修1単位)において実施している。学生への配布資料はパワーポイントのスライドを元に作成し、重要な用語については穴抜きとしている。学生は講義を聞きながら穴抜きの箇所を記入しなければならないため、集中力を途切れさせずに講義を聞くことができる。学生は記入する箇所が多く過ぎると、記入することばかりに集中してしまうため、各スライドに1、2箇所のみ穴抜きとした。学生からは「眠くならず集中でき

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
22. 自己評価ルーブリックを使用した看護計画の展開(PBL)の実施	2016年04月～現在	た」というコメントが多くみられた。 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施している。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に自己評価ルーブリックを使用している。グループワークの各回の振り返りとしての自己評価をする際に、ルーブリックで望ましい学習態度を具体的に示した。このことで、学生は毎回の授業でどのように取り組めばより高評価になるかが具体的に理解でき、教員との共通理解を深めることができている。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 久米田看護専門学校2年生への授業	2016年10月～2016年12月	久米田看護専門学校2年生対象の小児看護学援助論Ⅱ（2年次、2単位、必修科目）のうち4回の講義（腎・泌尿器および生殖器疾患と看護、神経疾患と看護、悪性新生物と看護、血液・造血器疾患と看護）を行った。
4 その他		
1. 武庫川女子大学 国試対策担当	2016年04月～現在	看護学部の国試対策員として、集団指導や個別指導に取り組んでいる。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. ファンフレンズファシリテーター	2016年07月	
2. グループトリプルPファシリテーター	2014年12月	
3. 応急手当普及員	2011年08月	
4. 看護師		
5. 精神保健福祉士		
6. 養護教諭専修		
7. 保健師		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県看護協会 再就業支援研修会	2017年09月～2018年03月	兵庫県看護協会の再就業支援研修会にて、原則未就業者で就職を希望・計画されている看護師資格所有者を対象に、フィジカルアセスメントの演習を行った。
2. 口唇裂・口蓋裂の子どもを持つ母親へのトリプルP講習	2017年07月2017年08月	口唇裂・口蓋裂の子どもを持つ母親に対して、グループトリプルPの8回のセッションを行った。
3. 高校生への看護学の模擬授業	2016年12月～現在	高校生に対し、大学の看護学部ではどのようなことを学ぶのか、看護学部にはどのような特徴があるのか、看護師の仕事、バイタルサインの意味、バイタルサインの測定方法について模擬授業を行っている。
4. チャイルドケアミーティング	2016年04月～現在	兵庫医科大学病院を主とした阪神間の病院の看護職と兵庫医療大学および武庫川女子大学の教員で、健康障害を有する小児の事例検討および看護職への講義を行っている。
5. 武庫川女子大学「サマースクール」	2015年08月～2016年08月	武庫川女子大学サマースクールにて小学生を対象とし、2015年度は清潔（手洗いの必要性と手洗い方法）、2016年度は心臓の働きに関する健康教育を行った。
6. 大阪府立寝屋川支援学校教員研修	2011年04月～2014年03月	大阪府立寝屋川支援学校において、教職員向けにてんかんを持つ子どもへの対応に関する講義や、救急救命講習を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 学童期の口唇裂・口蓋裂児の学校生活に関する支援の検討	単	2020年2月	武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士論文	小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児を持つ母親への面接調査、小学校高学年の口唇裂・口蓋裂児への面接調査、小学校教員への質問紙調査を実施し、学童期の口唇裂・口蓋裂児の学校生活に関する支援について検討した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
2. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況およびけいれん後の対応	単	2011年03月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士論文	地域の小児科クリニック16箇所を受診した乳幼児の母親で、1年以内にわが子の熱性けいれんを経験した者を対象にした質問紙調査によって、けいれん時の対処行動、心理的状況、その後の対応の現状と関連を分析した。
3 学術論文				
1. 小児科外来の看護師が実施しているスムーズに診療や看護を進めるための判断や工夫 参加観察とインタビューによる調査 (査読付き)	共	2020年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル; 5, 25-32	小児科外来の診療場面において、スムーズに診療や看護を進めるための看護師の判断や工夫について明らかにするために、小児科外来に勤務する看護師の5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。その結果、『時間を短縮するための判断・工夫』『安全に診療をするための判断・工夫』『関係性を築くための判断・工夫』『待ち時間に対する不満を軽減させるための判断・工夫』から構成されていた。本人担当部分：データ収集と分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、吉田陽子、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子、竹島泰弘
2. ジグソー法を取り入れたアクティブラーニングに対する学生からの評価 小児看護学演習科目における看護過程展開の実践報告 (査読付き)	共	2019年2月	日本看護科学会誌; 38: 237-244	2年次後期の小児看護学演習科目における看護過程の展開でジグソー法を取り入れたアクティブラーニングを実施し、その実施後の学生からの評価について示した。学生76名を4人1組19グループに分け、4つのアセスメントの視点(疾患・治療、生活、成長・発達、家族)ごとにエキスパートグループでアセスメントを深め、もとのジグソーグループに戻り教え合った。その後、関連図作成、問題明確化、計画立案をした。65名からの有効回答により、「積極的に参加できた」「責任を持って参加できた」という学生が9割以上を占め、ジグソー法の満足度は平均80.5点という結果を得た。本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
3. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 孫に関連する心理的側面	共	2019年10月	日本口蓋裂学会雑誌; 44(3), 175-181	孫の口唇裂・口蓋裂の告知から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、A病院に通院する口唇形成術後の孫をもつ父方・母方祖母に、孫の疾患告知後から口唇形成術後の心理状態について、半構造化面接を行った。対象者15人の逐語録について質的記述的分析を行い、4つのコアカテゴリーに分類した。【孫に関連する心理的側面】は[孫の疾患に対するショック]、[孫の疾患から生じる苦悩]、[疾患のある孫の将来への心配]、[孫の疾患を認識することによる安心感]、[前向きな受け止めへの覚悟や決心]、[孫がもたらす幸せ]の6つのカテゴリーで構成された。祖母は、孫の疾患に対して、可視的差異、間違った認識や偏見等により、ショックを受けていたが、「仕方がない」という前向きな受け止めで受容していた。祖母は孫が疾患をもって生れてきたことに意味づけをすることで愛着や幸せを感じ、祖母としての役割を果たす気持ちが沸き起こり、孫や娘に寄り添い支援することができるといえる。口唇口蓋裂に関わる全ての医療者が、これらの祖母の特徴や役割を理解して、チーム医療を提供する対象者として認識し、対応する努力が必要であると考える。本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、池美保、古郷幹彦、藤原千恵子
4. 胆道閉鎖症を疑われた子ども(新生児)の母親が退院するまでの期間に不安に陥った体験のナラティブ分析 (査読付き)	共	2019年07月	日本小児看護学会; 28: 235-239. doi:10.20625/jschn.28_235	本研究では、児が胆道閉鎖症を疑われてから病院を退院するまでの期間において、その疾患を否定されたにもかかわらず母親の不安が継続した体験を明らかにすることを目的とした事例検討を実施した。Emdenのナラティブ分析を行った結果、3つのテーマ(「児の病気の重大性」「ほかの症状の見落とし」「母親が行ってきたことの否定」)が抽出された。本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子
5. Parental factors predicting unnecessary ambulance use for t	共	2019年07月Epub ahead	Journal of Advanced Nursing; 2019 Jul 26.	不要不急な救急車要請を行う親の要因を明らかにするための横断調査を行った。小児科外来に受診した1

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
heir child with acute illness: A cross-sectional study. (査読付き)		of print	doi:10.1111/jan.14161.	71名の親に対するアンケート調査の結果、「親の不確かさが高い」「子どもの病気の情報源がない」「ヘルスリテラシーが低い」「初めての症状」の4要因が有意に不要不急な救急車要請に関係していることが明らかとなった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：Ueki S, Komai K, Ohashi K, Fujita Y, Kitao M, Fujiwara C.
6. 口唇裂・口蓋裂にある子どもが小学校に入学する際に母親が抱えていた不安 (査読付き)	共	2019年05月	小児保健研究; 78(3): 220-227	口唇裂・口蓋裂のある子どもが小学校に入学する際に母親が抱えていた不安を明らかにすることを目的としたインタビュー調査を行った。対象は小学校低学年の口唇裂・口蓋裂のある子どもの母親13人であり、質的記述的研究手法を用いて分析を行った。その結果、5カテゴリー（【ほかの子どもからの容姿の違いへの指摘】【容姿の違いに関連したわが子が抱く葛藤】【発音の不明瞭さ】【外傷による創の離開】【教員による差別的な発言】）に分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子
7. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」の関連要因 (査読付き)	共	2019年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル; 4: 47-54	小児科外来の看護師が認識する「保護者の小児科外来に対する満足度」に対する関連要因について明らかにするため、調査票を用いた横断研究を実施した。小児が入院する136施設より回答を得た。看護師が認識する保護者の満足度の平均は、100点中57.8点であった。この満足度を従属変数とした重回帰分析では、医師と看護師の人間関係、待ち時間、医師の子どもや保護者への対応、小児科経験の浅い看護師の教育、複数の検査がある場合は結果がでるまでの時間が長い検査から実施することの5項目が有意な関連要因であった。 本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
8. 臨地実習指導者としての経験がない看護師の小児看護学実習に対する認識とその関連要因 (査読付き)	共	2019年03月	日本小児看護学会誌, 28, 19-26	小児看護学実習を受け入れている病棟に勤務する臨地実習指導者としての経験がない看護師の、小児看護学実習に対する認識と、その認識に関連する要因を分析することを目的に質問紙調査を行った。対象者は、小児看護学実習に対して『子どもや家族のケア効果』を最も強く、次いで『学生指導に対する困難感』を強く認識していた。重回帰分析の結果、対象者は、「業務量」や「子どもが嫌がる処置への対応」といった看護師側に向けたストレスを感じる者ほど、看護師主体に『いつもどおりにできない負担感』を感じていた。一方で、「子どもと家族への対応」や「難しい対象へのかかわり」といった子どもと家族に向けたストレスを感じるほど、子どもと家族中心に『子どもや家族へのケア効果』や『学生がもたらす摩擦』を感じていた。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新家一輝、植木慎悟、北尾美香、藤田優一、前田由紀、藤原千恵子
9. 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけ (査読付き)	共	2019年03月	日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション; 49: 87-90	A大学病院の小児科外来に勤務する看護師5名を対象に、幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけの内容について調査した。看護師1名につき2日間、のべ10日間の参加観察を実施した。観察内容をフィールドノートに記録し、記録した内容について、コード化、カテゴリー化の分析を行った。幼児の採血場面での看護師の声かけは、4つの場面（「採血室に入室した時」「採血の直前」「採血針の穿刺中」「採血直後」）に分けられた。場面ごとに「辛い症状に共感する」「不安を和らげる」「ディストラクションを行う」「もう痛くないことを説明する」などのカテゴリーが得られた。 本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、吉田陽子、北尾美香、植木慎悟、藤

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. Resilience and difficulties of parents of children with a cleft lip and palate. (査読付き)	共	2019年02月	Japan Journal of Nursing Science. 2019; 16(2): 232-237 DOI: 10.1111/jjns.12231	原千恵子 口唇口蓋裂を持つ小児の両親64ペアに対し、レジリエンスおよび困難感についてのアンケート調査を行った。母親は父親よりも小児の将来を心配する気持ちと自らを責める傾向にあった。一方で、レジリエンスの中の問題解決力と受け止め力の点において母親よりも父親のほうが高かった。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
11. 小児科外来の看護師が受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫 (査読付き)	共	2018年11月	外来小児科, 21(3), 456-459	植木慎悟、藤田優一、北尾美香、熊谷由加里、池美保、新家一輝、松中枝理子、藤原千恵子 総合病院の小児科外来の看護師が、受付から診察が終わるまでの間に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするため調査をし、62名から回答があった。コードは11カテゴリーに類型化され、【問診を行い情報を得る】【重症患者を優先する】【待ち時間への配慮を行う】【診察の前に計測や検査を行う】【診察が滞らないように事前に準備しておく】などに類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析・論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
12. 母親から口唇裂・口蓋裂のある子どもへ疾患の説明をした際の契機とその理由 (査読付き)	共	2018年10月	日本口蓋裂学会雑誌, 43(3), 216-222	藤田優一、植木慎悟、北尾美香、前田由紀、藤原千恵子 母親が口唇裂・口蓋裂のある子どもへ疾患の説明をした際の契機とその理由を明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口蓋裂のある子どもをもち、既に子どもへの疾患の説明をしている母親13名を対象に半構造化面接を行った。分析の結果、疾患の説明の契機は、【小学校入学を契機に】【手術を契機に】【子どもの疑問を契機に】【日々の生活の中で】の4カテゴリーに分類された。【小学校入学を契機に】には、<小学生になったら友達から病気のことを指摘されることがあると思ったため>などが、【手術を契機に】には<手術を受けるときに、父親が隠さず話すべきと考えたため>などが、【子どもの疑問を契機に】には、<小学校入学前までにと思っていたが、保育園の年中あたりで、友達に傷のことを聞かれたが本人が答えられず、傷のことを聞いてきたため>などが、【日々の生活の中で】には、<病気を隠そうという気持ちはなく、本人が分かるようになったら言おうと思っていたため>などが分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
13. 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連した否定的な体験に対する母親の認識 (査読付き)	共	2018年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 3, 15-24	北尾美香、熊谷由加里、高野幸子、池美保、植木慎悟、藤田優一、古郷幹彦、藤原千恵子 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している児の学校での疾患に関連した否定的な体験とそれに対する母親の思いを明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親13名に半構造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。母親は口唇裂・口蓋裂児の否定的な体験として【容姿や行動の違いへの指摘や病気の暴露に苦痛を感じていた】と認識していた。その体験に対して母親は【疾患に関連したからかいは起こるものだ】【疾患に関連したからかいは子どもの苦痛をわかってあげたい】【子どもが自分でからかいは対応できるようになって欲しい】【子どもに自分の疾患を前向きに捉えて欲しい】【教師はからかいは適切に対応して欲しい】と思っていることが明らかになった。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
14. 看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の研究手順の実態 (査読付き)	共	2018年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 3, 35-42	北尾美香、熊谷由加里、高野幸子、池美保、古郷幹彦、植木慎悟、藤田優一、藤原千恵子 デルファイ法を施行する際の指針を作成する一助とするために、看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の調査手順の実態について明らかにすることを目的として文献検討を行い、研究論文29件を分析対象とした。デルファイ法のラウンド数は概ね3, 4回、同意率は80%が多かった。最終段階の参

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
15. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付き）	共	2017年10月	日本口蓋裂学会雑誌, 42(3), 187-193	<p>加者数は50～60名程度確保できれば十分であるが、11～20名の文献も少なからずみられた。 本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、前田由紀、藤原千恵子</p> <p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名に質問紙調査を実施した。父親が期待する支援として最も多かった項目は「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれる」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれる」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳などの具体的な助言をしてくれる」であり、実際に受けた支援も同様であった。医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りの割合が最も多かった。4割以上の父親が期待以下だと回答した項目は「園や学校に対して必要時に専門的な説明や注意事項などの連絡をしてくれる」、「医療費や医療制度の相談にのってくれる」、「親族や友人などに子どものことを尋ねられた時の対応を助言してくれる」であった。 本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
16. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫（査読付き）	共	2017年07月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 107-110	<p>小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集、分析、論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子</p>
17. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付き）	共	2017年07月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 103-106	<p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子</p>
18. 小児用転倒・転落リスクアセスメントツール C-FRAT第3版の評価者間信頼性の検証（査読付き）	共	2017年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 2, 45-51	<p>小児用転倒・転落リスクアセスメントツールC-FRAT (Child Falls Risk Assessment Tool)第3版の評価者間信頼性を明らかにするため13名の看護師の一致度を調査した。各アセスメント項目のカップ係数は0.414～1.000であり、リスク判定結果のカップ係数は0.852であった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子</p>
19. 専門医療機関の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親に対する看護援助の内容とその問題（査読付き）	共	2016年03月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 1, 53-61	<p>口唇裂・口蓋裂の治療を行っている専門病院での看護経験の豊富な看護師11名の面接調査を行った。母親に対する看護についての語りから、専門医療機関外での看護援助の内容と看護援助をする上で看護師</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
20. 臨地実習指導者経験による看護師の小児看護学実習に対する認識と職務ストレスおよび看護キャリア認知の差異（査読付き）	共	2016年03月	日本看護学教育学会誌, 25(3), 25-35	<p>が感じている問題を抽出し、カテゴリー化した。看護師は、専門医療機関内での援助と出向して行う看護援助を多様に実施しており、実施するうえの看護師間の連携や病院組織のシステムに関する問題を認識していることが明らかになった。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、池美保、西尾善子、松中枝理子、藤田優一、新冨一輝、高島遊子、植木慎悟、北尾美香、石井京子</p>
21. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況（査読付き）	共	2014年03月	外来小児科, 17(1), 2-9	<p>小児看護実習を受け入れている病棟の看護師を対象に質問紙調査を行い、臨地実習経験の有無が小児看護学実習に対する認識、職務ストレスおよび看護キャリア認知において差異があるかを分析した。 本人担当部分：論文内容の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、木村涼子、林みずほ、高島遊子、新冨一輝、植木慎悟、北尾美香、藤田優一</p>
22. 看護職者による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係（査読付き）	共	2011年01月	第41回日本看護学会論文集：看護総合, 41, 56-59	<p>地域の小児科クリニック16箇所において、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、回収された135名のうち不備の多いものを除く106名を分析対象とし、熱性けいれん時の対処行動と心理状態の特徴を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤原千恵子</p>
23. 看護職者のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知（査読付き）	共	2011年01月	第41回日本看護学会論文集：看護総合, 41, 52-55	<p>研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、北尾美香、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子、</p>
24. 看護職者による患者家族のレジリエンスを引き出す支援とその支援に影響する要因（査読付き）	共	2010年12月	家族看護研究, 16(2), 46-55	<p>研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子</p>
25. 育児体験ストレスに小児看護学実習が与える影響の主観的・客観的判定（査読付き）	共	2008年02月	第38回日本看護学会論文集：小児看護, 38, 173-175	<p>3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンスを引き出す支援、およびその影響する背景要因を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新田紀枝、河上智香、高城智圭、高城美圭、北尾美香、常松恵子、上田恵子、石井京子、藤原千恵子</p>
25. 育児体験ストレスに小児看護学実習が与える影響の主観的・客観的判定（査読付き）	共	2008年02月	第38回日本看護学会論文集：小児看護, 38, 173-175	<p>小児看護実習を終了した学生10名と未終了の学生10名を対象に、啼泣乳児モデルの世話を実施した前後に脈拍や唾液を使用し生理的指標と心理学指標を用いて、乳児の啼泣から受けるストレスの程度を比較分析し、小児看護学実習の受講の有無による影響を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、北尾美香、石井京子、藤原千恵子</p>

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 小児科の診療所で勤務する看護師の教育の現状とニーズに関する調査	共	2020年09月19日～2020年09月30日	日本小児看護学会第30回学術集会（オンライン学術集会）	小児科の診療所で勤務する看護師の教育の現状とニーズについて明らかにすることを目的として調査を実施した。64施設よりアンケートが返送され、子どもの看護について独学で学ぶ際に使用している教材は複数回答で、「小児看護のテキストや雑誌」85.5%、「インターネット」72.7%であった。学びたい程度の平均値が高かった項目は、「アレルギーについて」「予防接種について」などであった。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香
2. スマートフォンのビデオ機能を用いた自己の振り返りによる絵本の読み聞かせ技術評価	共	2020年09月19日～2020年09月30日	日本小児看護学会第30回学術集会（オンライン学術集会）	2年次における絵本の読み聞かせの演習時に、スマホで動画撮影して振り返る方法が読み聞かせ技術にどの程度影響するのかを聞き手の立場から評価することを目的として調査を実施した。83人のデータを分析した結果、読み聞かせ技術の9項目すべてにおいて、2回目の方が1回目より有意に高い結果となった。学習達成度の平均は86.50%、学習満足度の平均は89.17%であった。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香
3. 唇顎口蓋裂のある小学生の学校生活における疾患に関連した体験	共	2020年09月19日～2020年09月30日	日本小児看護学会第30回学術集会（オンライン学術集会）	唇顎口蓋裂のある小学生の学校生活における疾患に関連した体験を明らかにすることを目的に、小学校4～6年生の唇顎口蓋裂児12名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、子どもが学校生活において疾患に関連した体験は【CLPに関連した対応】【他人からの援助】【CLPに関連した対応の拒否】【CLPに関する不快な気分】【CLPに関する不快な気分のなさ】【CLPに関連した友達への思い】【CLPに関する友達からの疑問】【CLPに関連する学校生活の制限】に分類された 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、植木慎悟、藤田優一
4. 小学校高学年の唇顎口蓋裂児の疾患に対する認識	共	2020年06月	第44回 日本口蓋裂学会総会・学術集会 日本口蓋裂学会雑誌 抄録号（第45巻2号p.128）誌面開催	小学校高学年の唇顎口蓋裂児の疾患に対する認識を明らかにすることを目的に、小学校4～6年生の唇顎口蓋裂児12名を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、子どもの疾患に対する認識は、【CLPへの関心】【CLPへの関心のなさ】【治療への積極性】【CLPの受け入れ】【CLPへの否定的な見方】で構成されていた。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、熊谷由加里、池美保、植木慎悟、古郷幹彦、藤田優一
5. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 「娘・家族に関連する心理的側面	共	2020年06月	第44回 日本口蓋裂学会総会・学術集会（日本口蓋裂学会雑誌 抄録号（第45巻2号p.171）誌面開催）	孫の口唇裂・口蓋裂疾患についての告知直後から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、口唇形成術後（生後約3か月）の孫をもつ父方あるいは母方祖母15人を対象に半構造化面接調査を行った。分析の結果、「娘・家族に関連する心理的側面」は、「娘の苦悩や家族への影響に対する懸念」、「娘の支援への決心」、「普通に対応する娘への安堵感」、「家族の力による安心感」の6カテゴリに分類された 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、池美保、古郷幹彦
6. 口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態 孫に関連する心理的側面	共	2019年05月	第43回日本口蓋裂学会総会・学術集会（新潟県新潟市）	孫の口唇裂・口蓋裂疾患についての告知直後から口唇形成術後までの祖母の心理状態を明らかにすることを目的に、祖母への半構造化面接調査を行った。その結果、孫に関連する心理的側面は、【孫の疾患に対するショック】【孫の疾患から生じる苦悩】【疾患のある孫の将来への心配】【孫の疾患の受け止め】【前向きな受け止めへの強い気持ち】【孫がもたらす幸せ】の6カテゴリに分類された。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由加里、藤田優一、北尾美香、植木

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけ	共	2018年09月	第49回日本看護学会： ヘルスプロモーション (岡山県岡山市)	慎悟、池美保、古郷幹彦、藤原千恵子 幼児の採血場面における小児科外来の看護師による声かけの内容について明らかにするため、小児科外来の看護師5名を対象に参加観察を実施した。看護師の声かけのコード数は43であった。これらのコードを分類し、【辛い症状に共感する】【理解度を確認する】【採血方法を選択してもらう】【コミュニケーションをとる】【不安を和らげる】【今からすることについて説明する】などのカテゴリーに分類された。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
8. ジグソー法を用いたグループワークに対する学生からの評価：小児看護学演習科目における看護過程の展開	共	2018年08月	日本看護学教育学会第28回学術集会(神奈川県横浜市)	協調学習のひとつであるジグソー法を取り入れたグループワークを実施し、看護系大学2年生65名の学生からの評価について明らかにした。学生からの評価としてグループワークの満足度の平均は100点満点中80.5点であった。自由回答では「メンバーに欠席者がいると負担が大きくなる」などの意見がみられた。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
9. Effectiveness and smoothness of the implementation of paediatric outpatient nursing techniques in Japan.	共	2018年08月	International Conference on Nursing Science & Practice 2018(London, UK)	136施設から回答を得たアンケート調査によって、小児科外来における診察前・診察中・検査中のスムーズな診療につなげる看護技術の項目が明らかとなった。子どもや親の安全性につながる技術はそれほど多くの施設では行われていなかったが、それらはコストがかかる理由も考えられる。費用対効果を考慮したほかの技術も考慮される。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子
10. 小児の転倒・転落防止対策に対する看護師の認識と病棟の転倒・転落防止に対する取り組みの状況との関連	共	2018年07月	小児看護学会第28回学術集会(愛知県名古屋市)	看護師の転倒・転落防止対策に対する実施すべきという認識と病棟の転倒・転落防止に対する取り組みの状況との関連性について明らかにすることを目的とし、小児が入院する17病棟に勤務する看護師を対象として調査を行なった。110名より回答があり、転倒・転落防止対策44項目の認識のうち、病棟の取り組みの状況と有意な相関がみられた対策は17項目であった。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
11. 小学校勤務の養護教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂に関する疾患・治療・学校生活での心配事の認識の差異	共	2018年07月	小児看護学会第28回学術集会(愛知県名古屋市)	小学校勤務の養護教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂に関する疾患・治療・学校生活での心配事の認識の差異を明らかにすることを目的に、養護教諭1000名を対象に自記式質問紙調査票を行った。CLPについての病気のイメージに対して、看護師免許取得者が3項目で有意に肯定的な捉え方をしており、また身近にCLP者が存在しない養護教諭がCLPは「遺伝する」と、疾患を誤解して捉えていた。CLPの治療のイメージでは、CLP児の在籍経験のないものは有意に「手術は小学校入学前までに終わる」と捉えていた。学校生活でのCLP児の心配事は、看護師免許非取得者と経験年数の短い養護教諭が有意に、CLP児が心配しているとして捉えていた。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子
12. 小学校教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂のイメージの差異	共	2018年06月	第65回日本小児保健協会学術集会(鳥取県米子市)	小学校教諭の個人要因による口唇裂・口蓋裂のイメージの差異を明らかにすることを目的に、公立小学校教諭6000名を対象に、自記式質問紙調査を行った。肯定的なイメージでは、教諭経験年数は1項目で有意差がみられ、経験年数平均以上群が平均未満群よりも有意に高かった。否定的なイメージでは、教諭経験年数は2項目で、身近なCLP者の存在は10項目で、CLP児の担任経験は5項目で、CLPの知識は11項目で有意な差がみられ、CLPを知る機会が少ない教諭がCL

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 口唇裂・口蓋裂児へ病気を説明した際の契機とその理由	共	2018年05月	第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会（大阪府大阪市）	Pに否定的なイメージを持ち、CLPを誤解して捉えていたことが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 母親が口唇裂・口蓋裂児へ疾患の説明をした際の契機とその理由を明らかにすることを目的に、小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児をもつ母親13名を対象に、半構造化面接を行った。カテゴリー化の結果、母親たちが疾患の説明をおこなったきっかけは、『小学校入学を契機に』『手術を契機に』『児の疑問を契機に』『日々の生活の中で』に分類された。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
14. 子どものホームケア方法の情報提供を目的としたホームページ開設の試み	共	2018年04月	第33回近畿外来小児科学研究会	共著者名：北尾美香、藤田優一、熊谷由加里、高野幸子、池美保、古郷幹彦、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来でよく見られる子どもの症状に対応する親の看護力向上を狙いとして、ホームケア方法を掲載したスマートフォン対応型ホームページ（HP）を開設した背景や今後の展望について報告した。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
15. 救急車要請の判断に影響を与える親の不確かさ尺度の基準	共	2018年03月	日本看護研究学会 第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	共著者名：植木慎悟、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子 親の不確かさが小児の不要不急な救急車要請の判断に影響を与える要因であることを不確かさ尺度（PUCAS）を用いて明らかにした。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
16. 母親が認識している小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連した否定的な体験	共	2018年03月	日本看護研究学会 第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している児の学校での疾患に関連した否定的な体験を明らかにすることを目的に、学童期の口唇裂・口蓋裂児の母親に半構造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。分析対象は小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親13名とした。その結果、母親は口唇裂・口蓋裂児の否定的な体験として【容姿や行動の違いへの指摘に自分で対応できた】【容姿の違いへの指摘や病気の暴露に苦痛を感じていた】と認識していた。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
17. デルファイ法を用いた国内の看護系文献の検討	共	2018年03月	日本看護研究学会第31回 近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県西宮市）	共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 デルファイ法を施行する際の指針を作成する一助とするために、看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の調査手順の実態について明らかにすることを目的として文献検討を行い、研究論文29件を分析対象とした。最終回での参加者数の度数分布では「31～40人」が5件、「11～20人」、「51～60人」がそれぞれ4件ずつであり、明らかな偏りは見いだせなかった。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
18. 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母親の不安	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会学術集会（岩手県仙台市）	共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、前田由紀、藤原千恵子 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母親の不安を明らかにすることを目的に、学童期の口唇裂・口蓋裂児の母親15名を対象に、半構造化面接調査を行い、内容分析法にて分析した。母親は子どもの小学校入学に伴い、【他の子どもからの容姿の違いへの指摘】【容姿の違いや指摘に対する子ども自身の葛藤】【外傷による創の離開】【伝わりにくい言語】【保護者への正確な病気説明】という不安を抱えていたことが明らかになった。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能
19. 急性疾患をもつ小児の親の不確か	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会	共著者名：北尾美香、熊谷由加里、池美保、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 不確かさ尺度（PUCAS）の構成概念妥当性および関連

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
さ尺度の構成概念妥当性および関連要因の検討			会学術集会（岩手県仙台市）	要因を検討するため、急性期疾患を持つ小児の外来受診後、親に不確かさ尺度（PUCAS）を含む質問紙を渡した。171名を共分散構造分析した結果、尺度として成立することが明らかとなった。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友
20. 小児科外来の看護師が行っている診療や看護をスムーズにさせるための情報収集と情報共有の方法	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。27コード、8サブカテゴリー、2カテゴリー【情報の把握】【看護師間の情報共有】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、藤原千恵子、竹島泰弘
21. 採血場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の採血場面において診療や看護をスムーズにさせるために看護師が行っている判断や技術を明らかにするため、看護師5名の参加観察およびインタビューを行った。25コード、7サブカテゴリー、2カテゴリー【確実な採血の実施】、【安心・安全な採血の実施】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子、竹島泰弘
22. 診療場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。28コード、5サブカテゴリー、2カテゴリー【医師との協働】【スピーディーな行動】に類型化された。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：吉田陽子、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子、竹島泰弘
23. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因	共	2017年09月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因について明らかにするため、小児科外来に勤務する看護師を対象に自記式の質問紙調査を行った。看護師が認識する保護者の満足度の平均は100点中57.8点であった。満足度と有意な相関があった要因は、診察までの待ち時間、医師と看護師間の人間関係、看護師間の人間関係、複数の検査がある場合は結果がでるまでの時間が長い検査から実施する、処置検査時のプレパレーションの実施などであった。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
24. What to Do Until the Ambulance Arrives: Nursing Practices at Pediatric Outpatient Departments in Japan	共	2017年08月	2 nd APNRC（台北）	小児科外来で救急車が到着するまでに看護師が実施していることを明らかにするために質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは27件あった。カテゴリーは「医療機器の準備」「患者の情報収集」「患者の事前受け付けをする」「医療者を呼んでおく」「実施マニュアルの掲示」などがみられた。 本人担当部分：分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子
25. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「医療」「医療者」「家族」「自分自身」「友人・知人」「体験者間」の対応や存在が支えになっていた。 本人担当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
26. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	共著者名：熊谷由香里、北尾美香、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親80名を分析した。「医療者・病院のスタッフ」「医療」「家族」「同じ疾患の子どもを持つ親」「友人・知人」の対応や存在、「自分の考え・経験」「経済面」が支えになっていた。 本人該当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
27. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の育児に対する認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	共著者名：北尾美香、熊谷由香里、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族に対する視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
28. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の育児に対する認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	共著者名：藤原千恵子、熊谷由香里、北尾美香、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた父親80名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族としての視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集、分析 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
29. 口蓋裂児に病気のことを話す時期や内容に関する父親と母親の認識	共	2017年05月	第41回口蓋裂学会学術集会（東京）	共著者名：松中枝理子、北尾美香、熊谷由香里、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親と父親を対象に、子どもに病気のことを話す時期や内容について、専門外来受診時に質問紙調査を行った。話している時期は3歳であった。話している内容については多岐に渡っていた。 本人該当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
30. A Study on Pediatric Outpatient Nursing Techniques for Performing Medical Examinations Effectively and Smoothly.	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	共著者名：植木慎悟、熊谷由加里、北尾美香、松中枝理子、池美保、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 小児科外来の看護師が医師の診察中にスムーズにさせるために実施している技術を明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは20件あった。カテゴリーとして「診察の準備」「患者間違いの防止」「子どもに安心感を与える配慮」「診察の介助」などがみられた。 本人該当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
31. The Current Status of Pediatric Outpatient Departments in General Hospitals in Japan	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 日本の総合病院における小児科外来の現状を明らかにするために300施設の小児科外来に調査を実施した。1日あたりの小児外来患者の平均数は62.6人であり、平均待ち時間は36分であった。約76%がワクチンの投与と疾患の治療のために別々の時間帯を設けており、そのような施設では、待ち時間が有意に短かった。 本人該当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能
32. Challenges for Pediatric Outpa	共	2017年03月	20 th EAFONS（香港）	共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来の看護師が困難に感じていることを明らか

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
tient Nurses				
33. 母親の口唇裂・口蓋裂をもつ子どもに関する認識と医療者への期待と実際－裂型別での比較－	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	かにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは88件あった。カテゴリーとして「多忙な業務」「高度な専門性」「設備の使いにくさ」「理解不足の親への対応」などがみられた。本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子
34. 夫婦間における口唇裂・口蓋裂児に関する認識と育児レジリエンスの比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの両親である夫婦間において、口唇裂・口蓋裂に関する認識やレジリエンスの程度に違いがあるかを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、両親64組を分析した。CLPに関する認識では、将来への心配に関する2項目、および自らを責める2項目において母親の得点が有意に高かった。育児レジリエンス尺度の「問題解決力」と「受け止め力」において父親の得点が有意に高かった。本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、新家一輝、藤田優一、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子
35. 母親の口唇口蓋裂児に関する認識：発達段階別での比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（東京）	母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の発達段階別で比較し、差異を明らかにするために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。発達段階別で比較した児に関する認識は17項目中7項目において発達別に有意差がみられた。児の発達に伴って不安や悩みが軽減する項目がある一方で、発達に伴って将来への心配が強くなる項目もみられた。本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、新家一輝、松中枝理子、北尾美香、藤原千恵子
36. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション（三重県津市）	小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
37. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション（三重県津市）	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：松中枝理子、北尾美香、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子
38. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受け	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
た支援			(三重県津市)	らに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子
39. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の心理的状況	共	2011年08月	第21回日本外来小児科学年次集会（兵庫県神戸市）	地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の心理状態の特徴を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤原千恵子
40. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動	共	2011年08月	第21回日本外来小児科学年次集会（兵庫県神戸市）	地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の対処行動の特徴を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤原千恵子
41. 看護職者のキャリア形成に関する認識	共	2010年08月	第36回日本看護研究学会学術集会（岡山県岡山市）	臨床現場で働く看護職者を対象とした自由記述調査によって、看護職者がキャリア形成をどのようにとらえているかの認識を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：上田恵子、高城美圭、常松恵子、高城智圭、北尾美香、河上智香、新田紀枝、藤原千恵子、石井京子
42. 看護職者による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係	共	2010年07月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、北尾美香、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
43. 看護職者のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知	共	2010年07月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集、分析、抄録作成、発表担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
44. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援の構造－	共	2009年09月	日本家族看護学会第17回学術集会（岐阜県高山市）	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族へのレジリエンスを引き出す援助の構造を明らかにした。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、高城智圭、新田紀枝、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
45. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－看護経験年数および職務キャリアによる実施の差異－	共	2009年09月	日本家族看護学会第16回学術集会（岐阜県高山市）	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、看護職者の経験年数やキャリア得点に寄って患者家族に対するレジリエンス支援の実施に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：高城智圭、新田紀枝、河上智香、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
46. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援に影響する要因－	共	2009年09月	日本家族看護学会第16回学術集会(岐阜県高山市)	原千恵子 3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンス支援の必要性に影響する要因を分析した。 本人担当部分：データ収集、分析の妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新田紀枝、河上智香、高城智圭、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
47. 小児看護学実習が育児体験ストレスに与える影響の主観的・客観的判定	共	2007年09月	第38回日本看護学会小児看護(茨城県つくば市)	小児看護実習を終了した学生と未終了の学生を対象に、啼泣乳児モデルから受けるストレスの程度を生理学指標を用いて比較し、実習の影響を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、河上智香、石井京子、藤原千恵子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 口唇口蓋裂児が就学時に直面する心理的苦痛緩和のための家庭と学校間の協力支援の検討	単	2016年10月	科学研究費補助金「研究活動スタート支援」 助成金：2,340千円	学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親を対象に面接調査を実施し、就学に伴う不安や就学後の心理的苦痛について明らかにした。また、教員を対象に質問紙調査を実施し、教員の口唇裂・口蓋裂についての認識や学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもに対する学校の対応について明らかにした。
2. 小児科外来における看護実践の暗黙知の解明とSECIモデルを活用した学習方法の検証	共	2016年04月	科学研究費補助金「基盤研究C」 助成金：4,550千円	小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術」を、知識変換の過程であるSECIモデルを用いて形式知へ変換し、学習用の動画とパンフレットを作成して外来看護師へ講習を行い、その効果を検証する。 研究代表者：藤田優一 研究分担者：藤原千恵子、植木慎悟、北尾美香
3. 口唇口蓋裂児の親のレジリエンスの解明と育児困難への前向き育児プログラムによる介入	共	2014年04月	科学研究費補助金「基盤研究C」 助成金：4,680千円	口唇口蓋裂をもつ子どもの親を対象に、育児レジリエンスと困難感に関する質問紙調査を実施した。育児に悩みを抱える親に対してトリプルP講習会を開催し、その有効性を検証した。 研究代表者：藤原千恵子 研究分担者：藤田優一、高島遊子、新家一輝、植木慎悟、北尾美香
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2018年02月09日～現在		まちの保健室		